

11月19日、道の駅までい館で、「いいたて愚真会」の皆さんが蕎麦打ちの実演・販売。飯館産の新蕎麦です。佐藤峯夫会長(宮内)は「おいしく味わってほしいね。来年は期間を設けて新蕎麦まつりができるといいなあ」と話していました。



愚真会の新蕎麦は道の駅のレストランでも味わえます。左はきのご蕎麦。全蕎麦メニューに揚げ餅と漬物が付いています。

「いいたて愚真会」が新蕎麦を実演販売



災害救助犬 じゃがいもの里帰り

『わんだフルまでい大使』で災害救助犬のじゃがいもが11月19日に1日限りの里帰り。震災の年に生まれたじゃがいもは、NPO法人日本動物介護センター(岐阜県)に預けられ、訓練を経て11回目の挑戦で災害救助犬になりました。この日は弟犬のゴンと一緒にふるさとでの交流を満喫です。

「図図倉庫」が本格オープン!

合同会社MARBLiNG(マーブリング)が運営する『図図倉庫』(深谷)。本格オープンに合わせて11月19日・20日に内覧会が開かれました。関心を寄せる人たちが、整備に関わってきた人たちが次々に訪れ、交流も楽しんでいました。



(上)内外の人が関わりリノベーションに取り組んできた『図図倉庫』。Wi-Fi環境・冷暖房を完備、複合機などを備えたシェアオフィスの共用(有料)も開始しました。(下)11月23日には交流センターで4回目となる『飯館村の未来共創ワークショップ』を開催。20年後の村のありたい姿を描く一枚絵の制作や、ツアーの開発にも取り組んでいます。

山津見神社に一刀彫の白オオカミ

11月9日、「team OOKAMI」の皆さんが、杉岡村長を表敬訪問。アートを通じて飯館村を応援する新しいプロジェクトのスタートを報告し、山津見神社に奉納する伊勢一刀彫の「白オオカミ」を披露しました。オオカミをモチーフにしたデザインで、仕事おこしも企画していくそうです。



(上)表敬訪問の場面。(左)伊勢一刀彫の白オオカミ一対は翌10日、例大祭に合わせて山津見神社に奉納されました。

畑で充電!スローモビリティ

10月28日、株式会社G&ECO(小島盛利代表取締役)が花農家・花井由貴さん(大久保・外内)の『しえるふぁ〜む』でセレモニーを開催。花井さんにポータブル電源とソーラーパネルを贈呈、電動三輪バイクの無償貸し出しをスタートしました。脱炭素につながるエコシステムを中山間地域で始めようというプロジェクトの一環です。



畑で充電できるソーラーパネルなどを備えたエコバイク。セレモニーでは花井さんが実際に農園から道の駅まで花を積んでバイクを走らせました。



TOPICS

トピックス/話題

この秋、村への想いをこめた色とりどりの交流事業が数多く展開されました。ここで一気に紹介します。

村民食堂にいらっしやい!

役場に隣接する「までいな家」で、福島大学・大黒ゼミの学生が村民と協働して村民をおもてなしする『村民食堂』を定期開催しています。主催は飯館までい文化事業団。くつろぎの空間で、一汁一菜膳(500円)が味わえます。



「いいたて移住サポートセンター」となっている「までいな家」で10月から3月まで月1回の開催。次回は12月23日です。



10月28日のメニュー。村民がつくる漬物や2種類のおこわ、具沢山の汁物に小鉢も付いておいしそう!

12月9日には「村民食堂」スピンオフ企画が実施されます。かつて「生活改良普及員」として村の加工グループを支援くださった相馬市の阿部眞貴子さんが、思い出の地・飯館で、1日限りの和食レストランを開店します(限定40食・1食500円)。当時の仲間とぜひ訪れてみては。開店は午前11時です。

雪っ娘かぼちゃの収穫祭

11月23日、道の駅までい館で、『いいたて雪っ娘祭』が開催されました。当日は、開発・育種を行った菅野元一さん(宮内)、生産者で加工品開発に取り組む渡邊とみ子さん(前田・八和木)らがあいさつし、雪っ娘かぼちゃの魅力や今日に至る物語を紹介。各地で生産に取り組む仲間も駆け付け、品評会なども行われました。



雪っ娘かぼちゃはもちろん特長を生かして開発された加工食品や菓子も大人気。多くの人が買い求めました。